



みんなの 広場



※上の白点は、題字と同じ内容を点字で表したものです。

主な内容

チャレンジいわてアビリンピック3年連続金賞 … P1
特集「はたらくひと」…………… P2～3
施設だより …………… P4～5
永年勤続表彰、優秀勤労障がい者県知事表彰、
能登半島地震被災地職員派遣 …………… P6
シリーズ 時の足跡～10年を振り返って～… P7
第32回岩手県障がい者文化芸術祭、製品紹介「あゆむ弁当」、新採用職員紹介 …… P8



3年連続金賞 おめでとう

令和6年7月27日、てしろもりの丘よつば利用者の吉川知華さん（岩手県立盛岡峰南高等支援学校3年）が、「岩手県障がい者技能競技大会」（愛称：チャレンジいわてアビリンピック）オフィスアシスタント種目において金賞を受賞しました。令和4年から3年連続の金賞受賞です。おめでとうございます！

当法人では現在、952人の職員が働いています。どんな仕事をしていて、どんなオモイで働いているのか。今回は4つの施設の職員にお話を伺いました。

児童指導員・保育士(和光学園)

児童指導員、保育士ってどんな仕事？



職員間の情報共有は欠かせません。

和光学園は虐待等の理由により、家庭での生活が困難な子ども達が入所している児童養護施設です。1人ひとりの育ちを支えるために、児童指導員や保育士等は担当者として丁寧に寄り添い、心理専門員、家庭支援専門相談員、個別対応職員等の専門職がそれぞれの視点からサポートを加え、チーム体制で養育にあたっています。子ども達の多くは、入所に至るまでの複雑な背景による影響や子ども自身が抱える特性等により、愛着や発達等の課題を抱えていることから、日々の支援は一筋縄ではいかない場面も多々あります。小まめに見立てをすり合わせて支援方法を確認したり、専門職がスーパーバイズを行ったりしながら、広い視野で捉えた複数のアプローチによるケアを実践しています。



保育士兼里親支援専門員
齋藤あずさ さん



児童と1日の様子の振り返りを行います。

「魅力」や「やりがい」は何ですか？

肯定的で温もりのある養育に力を入れており、褒める、認める回数を増やして、子どもと職員との良好な関係性を強化する取り組みを行っています。子ども達のキラキラとした笑顔や成長していく姿が、我々職員の喜びであり励みになります。これからもあたたかな養育を目指し、成長を見守り支えていきたいです。

看護師(岩手県立療育センター)

看護師ってどんな仕事？



看護師 西城由樹さん(右)

療育センターの病棟には、肢体不自由児と重症心身障害児が入所しています。うち6割が超重症児・準超重症児にあたり、全国の障害児入所施設と比較しても重症度の高い方が入所している施設です。療育センターで働く看護師は、「私たちは利用者(者)一人ひとりを大切に、専門的知識に基づくやさしい看護を提供します」という看護理念のもと、入所児の日々の体調管理を行っています。特に呼吸ケアには力を入れており、治療型人工呼吸器や排痰補助装置の使用、気管切開患児には理学療法士と協力して腹臥位の導入も積極的に行っています。なかなか病室から出られず訪問教育を受けている重症児の成長や発達を促せるように、登校して同級生たちと活動するスクーリングにも力を入れています。学校行事の際に看護師が1名付き添い、入所児の体調をみながら、ご家族や同級生と刺激のある時間を過ごせるように努めています。

「魅力」や「やりがい」は何ですか？

私が思うこの仕事の「魅力」は、子ども達の成長や発達を見たり感じたりできることです。一人ひとりがゆっくりと、でも着実に成長しています。子ども達と一緒に過ごしながら、成長を実感し、できることが増えていとうれしくなります。一方で、意思の表出が困難な子どもに対しては、非言語的な訴えをくみ取り、その小さな変化に気づくことが「やりがい」でもあります。

今年度は、コロナウィルス感染症が5類に移行したため、人工呼吸器を装着し、自宅への外泊ができない児に対し、院内外泊の取り組みを試みました。厳しい面会制限が継続する中で、入所児とご家族が時間を共有できたことは、児にとってもご家族にとっても思い出に残るひと時になったと思います。今後も様々な活動を通して、入所児とご家族が楽しく過ごせるように関わっていきたくと考えています。



ミーティングを行い入所児の情報共有



生活支援員(てしろもりの丘あおば)

生活支援員ってどんな仕事？

てしろもりの丘あおばでは、主に知的障がいのある利用者様が生活しており、食事や排泄、入浴等の生活全般のサポートをしています。

言葉で思いを伝えることが難しい利用者様も生活されているので、絵カードや写真、スケジュールボード等を使い、工夫しながら支援を行っています。

利用者様が、好きなことを選びながら、楽しく生活ができるよう、職員みんなで色々なアイデアを出し合い仕事をしています。

「魅力」や「やりがい」は何ですか？

イベントや外出・ドライブが好きな利用者様が多く、季節行事や外出を積極的に取り入れ、利用者様の「ご希望」や「思い」に寄り添いながら支援をしています。

日々、支援で悩んだり、難しさを感じる部分もありますが、利用者様の楽しそうな表情を見ることができたり、私達の支援が上手くいったときに、喜びややりがいを感じます。

また、支援の中で私達職員も一緒に学び、成長することができるのは、この仕事の一番の魅力だと思っています。



利用者様とカラオケ店へ



秋にはサツマイモの収穫を行いました。

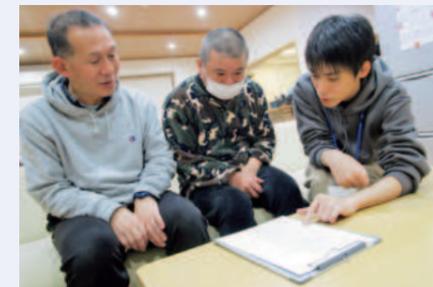


生活支援員 熊谷由貴 さん(右)

生活支援員(共同生活事業所「みたけ」)

生活支援員ってどんな仕事？

生活支援員は、グループホームで生活する障がいがある利用者様の食事の提供や、入浴、買い物などが自力では難しい方への『生活支援』、通院の付き添いや服薬支援などの『健康管理』、利用者様が仕事や日中活動を続けられるための職場、日中支援事業所との『連絡調整』などを行っています。また、地域行事への参加や、松の木まつりなどの地域住民を招いた行事を開催し、利用者様が地域と関わりながら暮らせるよう支援を行っています。



外出の計画や日程の説明を行っています。

「魅力」や「やりがい」は何ですか？

共同生活事業所「みたけ」では、いろいろな特性を持った利用者様が生活しています。皆さんそれぞれ地域とのつながりがあり、通われている職場や事業所は30か所以上になります。環境の違いやたくさんの個性を持った利用者様との関わりは、日々学びと驚きでとてもやりがいを感じています。たくさんの『気づき』を見つけられる仕事だと感じています。



生活支援員 八幡健太 さん

地域生活移行への取り組み

こぶしでは、地域生活移行に向けた取り組みに力を入れています。

最初に「地域生活移行とは何か」、全利用者の皆さんに向けた説明会を行いました。皆さんが望む生活や地域での生活のイメージの聞き取りを行い、職員と認識をすり合わせる良い機会になりました。

そのアンケートを基に後日、就労継続支援B型事業所や生活介護事業所の活動の様子を見学させていただきました。質疑応答では賃金についてや、就労に向けて必要な力について等、積極的に質問意見が出されていました。

その後、見学の振り返りを行い、地域生活移行や自身の目標達成の為に、自分に必要な力は何か、どの部分を苦手としているのか等を用紙に記入してもらいながら今後の生活で具体的に取るようにしました。今後の予定としてはグループホームの見学や体験実習等を実施していきたいと思ひます。

今後も地域での生活を見据えた支援を継続し、皆さんの自己実現のお手伝いができるようサポートしていきます。



フルーツキャップ作業を見学



振り返りを行う利用者様

新青山ホームへの引っ越し

令和6年7月1日から、新青山ホームでの生活が始まりました。新しいホームでの生活に子どもたちは緊張の表情でしたが、実際に足を踏み入れてみると「楽しみ！」と笑顔が見られました。新居ではそれぞれに部屋が用意されましたが、一人部屋に心躍る様子が見られる一方で、「一人で寝られるか不安だな」と心配する小学生がいるなど、反応は様々でした。それでも、一人になれる空間があるという安心感はあるようです。

また、以前は台所と居間が分かれており調理する場面が見えにくい構造でしたが、新ホームは対面キッチンからリビングダイニングが見渡せるため、子どもも調理場面を目にすることが出来る環境になりました。自動で湯をはるお風呂、広い洗面台、洗濯機だけでなく乾燥機まであり、子どもたちは毎日快適に生活しています。ホームで生活する子どもたちにとって、これからも明るく楽しい生活が送れるように支援していきたいです。



でき上がったお料理を並べます。



新しくなった青山ホームのお部屋



祝! 創立50周年



施設だより

やさわの園は、昭和49年に県内で初めての重度の障害児施設「やさわ学園」としてスタートし、平成14年に、障害者施設「やさわの園」となりました。現在では多様化する福祉ニーズに対応できるよう、グループホームや通所事業所などのサービスも提供しており、今年度、50周年の節目を迎えました。

記念デザイン、イメージカラーの選定、記念タオル作成、航空写真撮影、パネル作成、歴代園長をお呼びしての座談会、セレモニー等を通して、利用者の皆さんとともにお祝いしました。そして、その様子を「やさわだより50周年記念特別号」に掲載しました。

これまでの記録や写真、「やさわだより」の振り返りや、座談会を通して、やさわの園の強みは『地域、ご家族とのつながりの強さ』『アイデアあふれる支援』と再認識できました。やさわの園グループが笑顔あふれる場所となり続けるよう励みたいと思ひます。



移転後からの歴代園長をお呼びして座談会を開催。写真をみながら、当時を思いおこしていただきました。



手作りパネルの前で記念品のお披露目

アビリンピック全国大会3年連続出場

令和6年7月27日、てしろもりの丘よつば利用者の吉川知華さん(岩手県立盛岡峰南高等支援学校3年)が、「岩手県障がい者技能競技大会」(愛称:チャレンジいわてアビリンピック)オフィスアシスタント種目において金賞を受賞しました。令和4年から3年連続の金賞受賞です。

11月22日~24日には、愛知県で行われた「第44回全国障害者技能競技大会(アビリンピック)」にも出場しました。本人のコメントを紹介しします。

例年、放課後に練習する時間がたくさんあったのですが、今年は実習が重なってしまうなどして、練習の回数が少なかったです。少ない時間のなかで、集中して頑張りました。

愛知県での全国大会当日、1回目の作業は、観客も多く、会場の雰囲気緊張して手が震えてしまい、ラベルシールが2つ残ってしまったのが悔しかったです。

大会前後は愛知の観光を楽しみました。好きなアイドルの聖地巡礼をしたり、ユニットのみんなや家族にお土産を買えたことも良かったです。

〈オフィスアシスタント種目とは?〉

誰でも一度は経験したことのある「書類の封入」の手順を競技にしたもので、制限時間内にいかに早く、正確に作業するかを競います。文書を仕分けしながら、封筒へ封入。しわを出さないように封の折込みをする、宛名だけでなく住所も見ながら仕分けをする等、単純な中にも正確な技能が要求されます。

(独立行政法人 高齢・障害・求職者雇用支援機構 HP より抜粋)



会場のイメージ



ギターが得意な吉川さん



シリーズ 時の足跡 ～10年を振り返って～

入職から10年を迎えたお二人の方に、これまでの仕事や思い出に残っていること、後輩職員へのメッセージなどをお聞きました。

事務局 業務推進課 名久井 晃さん

①これまでのキャリアと現在のお仕事について、教えてください。

これまで障害者支援施設「やさわの園」、福祉型障害児入所施設「たばしね学園」、「てしろりの丘よつば」で働かせていただきました。現在は事業団事務局で預り金業務や支援記録システムに関する業務を行っています。慣れない環境ではありますが、上司や先輩職員の方々に支えてもらいながら、日々勉強させていただいております。



②10年を振り返って、一番思い出に残っていることは何ですか？

たばしね学園に勤務していた時、初めて担当した児童の成長を近くで見守ることができたことが思い出に残っています。担当児童が「これをやってみたい!」「頑張ってみよう!」と思えるような趣味やスポーツと一緒に見つけることができ、私も一緒になって楽しく過ごすことができました。また、その児童がたばしね学園卒業後も継続して頑張っているという話を聞いた時、とてもうれしい気持ちになり、今も応援しています。

③後輩職員へのメッセージをお願いします。

当法人にはいろいろな経験をできる機会が多くあり、自身を成長させることができると思います。同期、先輩、後輩職員等たくさんの職員がいるので、いろいろな人と話してみて、つながりを意識して仕事してみるのも良いかもしれません。今後大変なこと、辛いことを経験することもあると思いますが、無理に前へ進もうとせず、仲間と一緒に笑い話をして、一度立ち止まってみるのも一つの方法かと思います。一緒に頑張っていきましょう。



障がい者文化芸術祭
記念式典で司会を務める名久井さん(右)

相談支援事業所「たばしね」 佐野 野花さん

①これまでのキャリアと現在のお仕事について、教えてください。

中山の園やまゆり、療育センター「かがやき」を経て、現在は相談支援事業所「たばしね」で勤務をしています。相談支援事業所での業務は障がいのある方やご家族の方等からの各種相談に応じ、必要な情報の提供や助言、市町村や障害福祉サービス事業者等関係機関との連絡調整等です。日々、様々な相談が寄せられ対応に苦慮していますが、関係機関と連携しながら支援することで障がいのある方やご家族が少しでも安心して、希望する生活に近づく様子を見ることができると、やりがいを感じることができます。



②10年を振り返って、一番思い出に残っていることは何ですか？

療育センター「かがやき」で重症心身障がいの利用者さんの支援を行ったことが、一番思い出に残っています。医療的ケアがあり体調管理が必要なこと等、様々なことに制約がある利用者さん達に、同年代の人が当たり前で経験していることを経験させたいというご家族、職員の思いから、五感を使った季節の活動を企画し、事業所内で海水浴や海外旅行、キャンプ等を再現した活動を行いました。利用者さんの反応を見ながら工夫して準備を行ったことで、活動当日は利用者さんが普段とは違う一面や笑顔をたくさん見せてくれました。利用者支援で学んだことは、現在の相談業務にも活かしていると感じています。

③後輩職員へのメッセージをお願いします。

楽しいことや大変なこと等、いろいろなことがあると思います。何かあればいつでも周りの人に相談して一人で抱え込まず、体調に気を付けて働いてほしいです。



相談支援の様子

永年勤続職員を表彰

11月21日、令和6年度岩手県社会福祉事業団職員表彰式を開催しました。平成11年度に入職した6名の方が、25年にわたり社会福祉事業の進展に尽くした永年勤続者として、八重樫理事長から表彰状と記念品を授与されました。

受賞者代表として、田中茂樹さん(療育センター主幹兼事務局次長)から周囲への感謝が述べられるとともに、『改めて「お客様本位」「優しい心」「高い専門性」を意識しながら、日々の業務に邁進したい』との挨拶がありました。



その後の懇親会は、祝賀会に代わる催しとして、コロナ禍以来5年ぶりの開催となりました。事業団創立40周年の際に製作した映像を見ながらその歩みを振り返るとともに、受賞者の功を労う時間となりました。

優秀勤労障がい者県知事表彰受賞

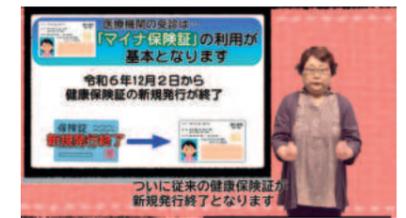
平成18年の開所以来、視聴覚障がい者情報センター聴覚部門の要として勤めてきた、我らが「ともちゃん」が優秀勤労障がい者として県知事表彰を受けました。

「ともちゃん」こと齋藤智子主任情報支援員。勤めていた銀行を辞め、当センターに入職。唯一の当事者職員として、県内の聴覚障がい者のため、手話言語を広めるため、手話通訳者の養成、派遣コーディネーター、相談支援、動画配信、啓発活動等に力を発揮。その豊富な専門知識を活かし、同僚はもとより、県内の当事者や手話通訳者の信頼も厚く、持ち前の明るい性格でたくさんの人に慕われています。

中でも開設当初にスタートした「ともちゃんが行く!シリーズ」で県内各地取材して歩いた手話入りビデオ制作は、現在、YouTube配信となり、ビデオミニニュース「ぶちたべ」、「もやもやスッキリ」の手話キャスターとして、表現豊かな手話で全国の当事者、手話学習者からも視線を集めています。最近、全国の研修会に出向くと「ホンモノだ!」と声を掛けられることもあるとか。受賞、おめでとうございます!



表彰を受ける齋藤智子さん(右)



能登半島地震被災地への職員派遣



久光さんの祖父母宅近くの被災状況

相談支援事業所「みたけ」相談支援員の久光美奈さんが、出身地石川県の能登半島地震の被災地支援を志願し、この夏、羽咋市の小規模多機能型居宅介護事業所「たきのーほーむ風和里」に応援職員として派遣されました。

■久光相談支援員のコメント

令和6年7月に5日間、石川県に応援職員として派遣されました。現地は慢性的な支援者不足で、他からの避難者だけでなく、地元の利用者にも負担が大きい状態でした。不満があっても、「支援してもらおう身でそれは言えない。」と皆さん我慢されていました。被災地復興は遅れており、能登にある祖父母宅も公費解体が進まず手付かずです。今後も継続的な被災地支援が必要であること、災害の多い日本では他人事でないことを強く感じました。

第32回岩手県障がい者文化芸術祭

11月14日（木）から12月1日（日）まで、ふれあいランド岩手を会場に「第32回岩手県障がい者文化芸術祭」を開催しました。開催にあたり、ご協力いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

各イベントの主な日程

作品展示	11月14日（木）～12月1日（日）
記念式典（応募作品展表彰式）	11月24日（日）
ふれあい音楽祭2024	11月30日（土）

作品展示・記念式典

応募作品展では、絵画・書道・写真・工芸・文芸の5部門に338点もの魅力溢れる作品が並び、たくさんの方々にご来場いただきました。表彰式では、各部門の受賞者の皆様に賞状と副賞をお渡ししました。



地域活動支援センター「ひこうせんいわて」の可憐花さんの作品が工芸部門で最優秀賞に輝きました！！

ふれあい音楽祭2024

岩手県内で音楽活動を行っている18団体が出演し、和太鼓やダンス、コーラス、ギターの弾き語り等、様々なパフォーマンスが会場を盛り上げました。



元気いっぱいのパフォーマンスが会場を盛り上げました！



製品紹介♪

「あゆむ弁当」

皆さまの笑顔のために、まごころをこめて作っています

「あゆむ弁当」は、皆さまに支えられ今年16年目を迎えました。食べていただいている時間が、ほっこりと笑顔になるようにとの思いを込め、ひとつひとつ丁寧に作っています。

昨今の社会情勢もあり、販売を始めたころとは状況が変わっていますが、「あゆむ弁当」のまごころは今も変わりません。

いままでも、これからも、「あゆむ弁当」をよろしくお願いします。

お客様の笑顔のため丁寧に盛り付け



毎日メニューが変わる日替わり弁当（500円）



連絡先 ☎019-662-6852

新採用職員紹介



松山荘
看護師
※令和6年12月1日採用
たかはし ひでとし
高橋 英俊
♪マイフーム♪
サウナとそば打ち
信頼される看護を目指し、頑張ります。



療育センター診療部
臨床工学技士
※令和7年1月1日採用
たきぐち なおこ
滝口 尚子
♪マイフーム♪
麴の発酵化粧水
得意分野を活かせるよう努めて参ります。